

## 大原生涯学習センター i - y o u t h における若者支援事業の進捗状況について

令和5年5月より委託事業に移行した、大原生涯学習センター i - y o u t h における「NPO 法人 Learning for All（以下「L F A」という。）」との若者支援事業について、進捗状況を報告する。なお、困難を抱える子どもへの支援として、有効と判断できる成果が報告されていることから、L F A と締結している「若者支援に関する連携協定」を継続し、令和6年度についても L F A に当該事業を委託する。

## 1 事業概要

(1) 令和5年度の事業内容（毎週 水曜日・金曜日）

①非登録制：16時から17時30分

まなぼーと大原 1 階の i - y o u t h に来ている不特定多数の子どもたちに対して L F A スタッフが関わり、遊びや勉強を通じて、子どもたちの困りごとを拾い上げる。

②登録制：18時から20時

困り事を抱えている子どもたちを対象とした登録制の個別支援として、困りごとに対する相談支援や子どもたちがやってみたいことを実現するプロジェクト学習を実施する。

③フードパントリー

上記①②の事業区分に関わらず、必要な子ども達に自宅で簡単に調理することができる食事を配布する。

(2) 活動実績（各人数は延べ数）

月	実施日数	参加者数	フードパントリー 配食数	L F A スタッフ数
4月	8日	非登録：485名 登録：32名	19食	16名
5月	7日	非登録：327名 登録：33名	58食	29名
6月	9日	非登録：430名 登録：33名	60食	37名
7月	8日	非登録：475名 登録：27名	56食	40名
8月	9日	非登録：559名 登録：28名	60食	43名
9月	9日	非登録：417名 登録：34名	61食	44名
10月	8日	非登録：402名 登録：31名	48食	44名
11月	9日	非登録：577名 登録：35名	61食	44名
12月	8日	非登録：305名 登録：26名	36食	46名

※委託事業としては5月より開始（4月は連携事業として実施）

## 2 具体的支援内容（主な成果）

### （1）非登録制（i－y o u t hでの見守り活動）

活動の定着に伴い、近所のお兄さんお姉さんのような存在としての認識が進んでいる。活動としては、i－y o u t hの利用者達と、おしゃべりやボードゲーム、自習のアドバイス、時には少し引いて見守るといった関わりを継続している。

現在、子どもの中に、本人の発達や家庭環境により継続的な見守りが必要と思われる利用者が1名おり、社会教育指導員と連携しながら、登録制への移行をめざし関係性の構築を図っている。

### （2）登録制（個別のプロジェクト学習）

現在5名が登録しており、うち1名が高校受験に向けた通塾のため休会中、他4名は安定して出席している（9割以上の出席）。登録制の子ども達は、活動日以外にもi－y o u t hに通うようになっており、居場所として定着している。

今年度より、個人学習だけでなく、クラブ活動のような共同で行う活動も実施しており、現在、「動画作成・配信」「カードゲームやイベント開催」「バンド活動」「勉強・進路」の4つの活動を行っている。

スタッフは活動全般を通じて、子ども達の自主性を尊重しながら、企画や活動の振り返りができるよう丁寧にファシリテーションを行っており、今年度の活動成果として、以下3点の行動や考え方の変化について報告があった。

- ・子どもたち同士の関係性がより濃いものとなった。
- ・子どもたちが、より強い自信を持ち、チャレンジしたいことが増えた。
- ・協同して物事に取り組む力が向上した。

### 【特徴的な個別事例】

Aさん（高校2年生）：精神的に不安定な状況が続いている。令和5年3月頃から希死念慮に関する言動があり、受託事業者のソーシャルワーカーと対応方法を整理するとともに、子ども家庭総合支援センターとの状況を共有した。生育環境や本人特性から複雑な困難を抱えており、子ども家庭総合支援センターと協力したモニタリングのもと、安心して気持ちを吐露できるような状況を作っている。

Bさん（高校2年生）：過去父親からDVを受けていた。現在は、母親・姉・妹と本人の4人で生活している。8月頃、母親が入院し、その期間は姉と家事を分担しており、苦労を吐露することがあったが、スタッフと前向きに学習活動に取り組み、Bさんは、東京都が主催する海外の国際交流プログラムに応募するため、スタッフに相談しながら、志望書や作文を提出した。

### （3）関係機関との連携

大原生涯学習センターi－y o u t hには、志村第一・二中学校の生徒が多いことから、昨年度より継続して両校との情報交換を進めている。また、子ども家庭総合支援センターとも、通告や見守り体制が適切に行えるよう打合せを実施した。

今年度は、登録制の1名が板橋フレンドセンターに通っていることから、板橋フレンドセンターとも、それぞれの居場所での様子や支援方針について意見交換を行った。